

若手職員紹介

資源研究部 まつい 松井 けんや 謙弥



【現在の業務内容】

令和5年（2023年）4月に入庁し、水産研究センター資源研究部に配属となりました松井謙弥です。

ブリ・サワラ等の資源評価調査、アユの資源動向調査、ガザミ種苗放流の技術開発事業などを担当しています。

幼少の頃から魚が好きだったため大学で水産学を学び、地元でその知識や経験を生かしたいと考え、熊本県の水産職を志望し採用となりました。

漁業者や漁協職員の方々に協力していただきながら業務を行っていくことが多く、

そのたびに現場の状況だけでなく、熊本の水産業について教えていただいております。また、諸先輩方の御指導を受けながら、日々の業務やデータ解析等に取り組んでいます。

【今後の目標】

業務が多岐にわたるため、取り組まなければならない課題や学ぶべきこと等がたくさんありますが、多くの方々の支えにより充実した日々を送っています。これからも、熱意を持ち、周囲とのコミュニケーションをしっかりと取りながら業務に励み、熊本県の水産業の発展に役立つよう業務を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

浅海干潟研究部 つしま 對馬 やすふみ 康史

【現在の業務内容】

私は令和5年（2023年）4月に入庁し、2年間の水産振興課勤務を経て、今年の4月から水産研究センター浅海干潟研究部に配属されました。

大学では水産学を先行し、卒業後は民間企業で医療系の仕事に従事していました。働いているうちに、水産業にもう一度携わりたいという思いが芽生え、熊本県の水産職を志望し採用となりました。

業務では、有明海の夏季の赤潮調査やタイラギの中間育成を担当しています。

赤潮調査業務では、魚類養殖等に被害を与える有害プランクトンの発生状況を定期的に観測し、プランクトンの発生状況を随時ホームページやFAXなどで発信しています。

また、タイラギの中間育成業務では、佐賀県、福岡県及び長崎県から預かったタイラギの稚貝を本県で一定期間飼育し、再び3県に還送する取組を行っています。これは、塩分低下に弱いタイラギを河川から離れた当センターで中間育成することで、タイラギ稚貝を安定的に生産することが見込めるためです。

【今後の目標】

熊本では、赤潮による漁業被害がここ数年連続して続いていることから、抜本的な対策が求められています。また、タイラギについても、国や有明海沿岸4県が協調し、資源回復に取り組んでいく必要があります。私の業務も多岐にわたり、まだまだ覚えることが多い日々が続いていますが、諸先輩方の指導を受けながら業務やデータ解析等に取り組んでいます。

即戦力として水産業振興に貢献できるよう調査研究に取り組んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



浅海干潟研究部

いのうえ

つばさ
翼

【現在の業務内容】

令和6年(2024年)4月に入庁し、浅海干潟研究部に配属されました井上翼です。

本県の干潟域における二枚貝の保護育成技術の開発や、産卵母貝(ぼがい)の保護管理、アサリやハマグリ資源回復に係る業務を担当しています。

近年、アサリやハマグリの稚貝の発生量は増えてつありますが、漁獲量の回復には至っていません。少しでも漁業者の水揚げにつなげられるよう、関係者の皆様と連携し、業務に取り組んでいます。

【今後の目標】

熊本県の水産業の発展に貢献できる県職員を目指しています。

なかでも、アサリやハマグリは本県における重要な漁獲対象種であり、私たちの研究が果たす役割は極めて重要です。私自身まだまだ経験が浅く、至らぬ点も



多々ありますが、上司や同僚の方々の指導を受けながら、毎日が勉強の日々です。研究活動を通して、まずは現場で力を発揮できるよう、努力すべきだと考えています。これからもハングリー精神を忘れずに、熱意をもって業務に取り組んでまいりますので、よろしくお願いします。

養殖研究部

たまき
玉城

ゆうしん
雄晨

【現在の業務内容】

令和7年度（2025年度）新規採用職員として養殖研究部に配属された玉城雄晨です。ブリの人工種苗生産や魚病診断に関する業務を担当しています。

ブリの人工種苗生産業務では、ワムシという生物餌料の培養を行っており、生き物を扱うことの難しさを感じています。

魚病診断業務では、県内の養殖業者から持ち込みのあった魚を諸先輩方の指導を受けながら、診断や結果の報告をしています。

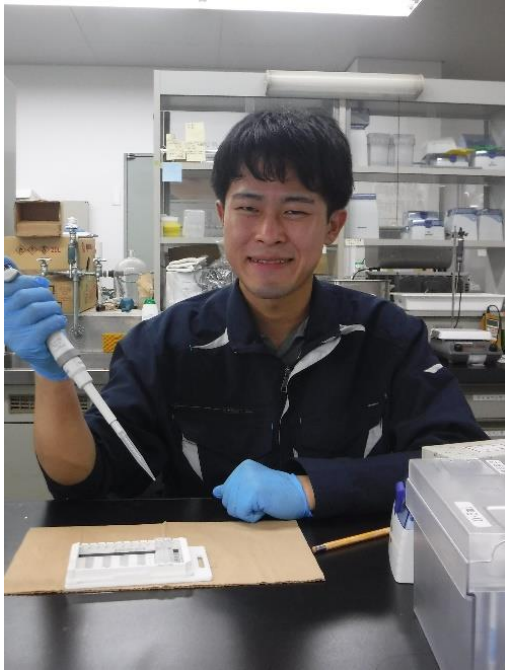
いずれの業務も、県内の養殖業の発展に直結するものであり、やりがいを感じています。また、技術や経験不足を特に感じているため、試行錯誤しながら積極的に業務に取り組み、漁業者の方の役に立てるよう技術、経験の習得に励んでいます。

【今後の目標】

今、魚の病気に関する研修を受けています。このような研修等に積極的に参加して、少しでも知識を増やすとともに、現場において漁業者の方々と意見を交わし、更に知見を積むことで、漁業者に頼られる県職員になれるように努力したいと思います。



食品科学研究部 しもづる たつき 下鶴 起揮



【現在の業務内容】

令和7年度（2025年度）新規採用職員として食品科学研究部に配属された下鶴起揮です。

定期麻痺性貝毒モニタリング調査、ワカメ、ヒジキ等食用海藻の増養殖に関する研究を主に担当しています。

定期麻痺性貝毒モニタリング調査に関しては、主に二枚貝に蓄積される麻痺性貝毒について、月に1～2回調査定点のアサリ、カキを対象にエライザ法によるスクリーニング検査を行っております。麻痺性貝毒は熊本県の水産物の信頼、そして人命にも関わる事象であるため、正確かつ迅速に結果を出すことを心がけています。今後とも、緊

張感を持って調査に取り組んで参ります。

ワカメ、ヒジキ等の増養殖に関しては、各地域から集めた母藻を元に配偶子や遊走子を採取し、増殖の支援や、優良系統の作成に取り組んでいます。海藻関連業務は、現場と密に接する機会も多いため、各漁業関係機関、漁業者の方から貴重な知見を学ばせていただいております。毎度現場に飛び出す機会は新鮮であり、新たな発見も多いため、非常に大きなやりがいを感じる日々です。

【今後の目標】

水産業の諸課題に対し、温かな心と冷静な思考で向き合う職員になりたいです。地元熊本県の水産業に貢献することが、私の幼い頃からの夢でもありました。その憧れの舞台に今立つことができ、胸を高鳴らせてはいますが、まだまだ未熟な部分もあり不安も多いです。今後、頼れる先輩方の指導の下、一つ一つ確実に業務を遂行し、いつか自分も頼られる先輩となれるように、失敗を恐れずに、様々な挑戦、経験を重ねて参ります。

今後、皆様から多くの助言等をいただくことがあるとは思いますが、その際は何とぞよろしくお願い致します。

御意見・御感想をお寄せください

熊本県水産研究センター 企画情報室

TEL 0964-56-5111（代表）

0964-56-5112（企画情報室）

e-mail suisankense@pref.kumamoto.lg.jp